

# 1 自己評価及び第三者評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2874700426		
法人名	かすみ福祉サービス有限会社		
事業所名	グループホーム赤とんぼ		
所在地	兵庫県美方郡香美町香住区守柄1351番地		
自己評価作成日	平成25年6月5日	評価結果市町村受理日	平成25年9月4日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/28/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2874700426-00&amp;PrefCd=28&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/28/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2874700426-00&amp;PrefCd=28&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	〒670-0955 姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館 6階		
訪問調査日	平成25年7月5日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

\* 利用者が寝たきり状態になっても、介護支援を行う。\* 長期記憶の保存維持を行う。\* 口腔ケアの強化をしていきます。\* 器具による歩行リハビリを行います。

## 【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所はのどかな山あいであり、一軒家の民家を上手く改装したグループホームで外装や内装においてなじみ易く落ち着いた雰囲気を感じる事が出来る。運営方針は経済的な負担が家族や入居者に極力かからないように配慮し、入居者が重度化し車椅子などが必要になっても出来る限り最期まで支援を続けたいという明確な方針がある。ケアにおいては平日頃から新聞の記事などをきっかけに各入居者の長期記憶に触れる事や1日3回の口腔ケアを徹底する事などを意識して支援をしている。なお、前回の調査で目標となった 運営推進会議開催回数 権利擁護の研修 入浴拒否の対応 外出の機会の4項目については達成が確認できたため、今後もケアへの取り組みが期待できる事業所である。

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

# 自己評価および第三者評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	充分ではありませんが概ね理念を共有していると思います。	3つの事業所理念が玄関に掲示されていた(1、個人の尊重・尊厳 2、家庭的環境でのケア 3、利用者・地域住民との共生)。管理者・職員ともに日々の会話の中で共有し、介護現場でも実践されている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	最近、歩行できる人が少なく、できていません。	管理者が中心となり地域と日常的に交流されている(自治会にも加入している)。地域への行事で参加できない時は、都度ビールなど届け交流している。近隣住民からは採れたての野菜などが届けられる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	機会がなくて、できていません。	/	/
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回できています。	平成24年7月より、会議の開催が定例化されている。構成メンバーも、家族代表・住民代表・民生児童委員・区長・地域包括支援職員・役場OB等、キャリアの高い人が参加し、議事録が詳細に記録されていた。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	協力関係を深めるように、なりました。	運営推進会議が定例化できるようになり、役場OBや地域包括支援職員等を通じて協力関係に努めている。管理者が人脈もあり関係者との協力関係も築かれているが、職員も連携の機会を増やしてほしい。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠だけは、しています。	事業所前の道路はトラックの通行もあり、安全面から玄関の施錠は都度している。(近くに採石場がある)身体拘束についての研修はできていないが、日々のミーティングで知識の共有をしている。	
7	(6)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は、研修会に参加しました。	管理者が虐待防止については伝達研修をしている。職員の夜勤などでのストレス対策では、ローテーションでの勤務体系でなく夜勤勤務者を別に配置している。職員の勤務は週休3日制に努めている。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	していません。	権利擁護に関する研修等は出来ていないが、支援に関する相談先は役場、地域包括支援センターなど連携できている。現在は利用者はいない。外部での学ぶ機会があれば参加し、伝達研修等が望まれる。	
9	(8)	契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に行っています。	社協から紹介での入居の際は、事前に概要説明等がされているが、直接の入居を含め重要事項説明や契約説明で多くは金銭的な質問が多い。重症化や看取りについても説明をし、理解に努めている。	
10	(9)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で討議したことを反映しています。	家族会や意見収集などの機会は設けられていないが、家族の訪問時等には話し合いに努めている。訪問のない家族等には毎月の請求と併せてお便りを同封している。	面会で訪れる家族が少ないことや、利用料等の支払いが振り込みとなっているので、持参での支払いやお便りに関する返信(意見・要望等)をお願いする工夫も検討してほしい。
11	(10)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その都度、相談しています。症状の急変、歩行の不安定などが多いです。	管理者と職員が話し合う機会や時間が多くあるので、都度意見や提案がされている。職員も長期勤務者が多く信頼もあり、日常の業務では主体的に任されている。役割の中で医療的分野は管理者が負う。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	特に、夜勤者の賃金条件の整備などです。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	最近はありませんが、行いたいと思います。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	最近、できていません。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15			初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	訴える人に耳を傾けていますが、あまりありません。安心感を確保する心がけを常に持っています。		
16			初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時などを利用して、家族の要望に副うように努めています。		
17			初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスは利用していません。		
18			本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	努めていますが、関係を築くなどはできかねます。		
19			本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	難しい課題です。、気持ちだけは持っているつもりです。		
20	(11)		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なるべく、なじみのお寺、学校など機会をもって訪問しています。	入居者の馴染みの人や場所の把握には努めている。特にお寺や小学校等の生活環境には出向いて確認している(会話の機会が増えるため)。個人情報保護から訪問者やボランティアには配慮が求められている。	
21			利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立はありませんが、会話が成立しないので、難しい問題です。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現状では、出来ていません。		
<b>、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(12) 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべく、なじみのお寺、学校など機会をもって訪問しています。	入居前の生活環境や暮らし方・思いを管理者が現地に出向いて確認するようにしている。その後の意向の把握は日常の生活やケアの中で把握に努め、職員間で共有するようにしている。	職員間では言葉によるコミュニケーションを通じて思いの共有に努め、可能な限り期待に副えるようにしている。センター方式など個別に記録し、共有できる取り組みにも期待したい。
24	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	把握はしていますが、暮らし方まではできていません。		
25	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に観察し把握しています。		
26	(13) チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを重視し把握しているつもりです。	毎月のモニタリングを職員の話し合いで行い、個別介護計画の見直しや作成をしている。関係者での話し合いや希望の反映では十分とは言えない(特に家族の希望などの把握に苦慮している)。	介護職員の勤務も定着しており、経験も豊富で現状に即した介護計画を作成して実施されているが、マンネリの傾向にあるので、今後はさらなる職員のスキルアップを図るために外部研修等の機会を増やしていただきたい。
27	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	できています。		
28	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来ていません。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来ていません。		
30	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来ています。	入居者、家族の希望に沿った受診支援をしている。協力医療機関(公立香住総合病院等)での受診が多い。医療機関の受診支援は主に管理者が担当しているが、情報提供等での関係構築もできている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	出来ていません。		
32	(15)	入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行っています。	入居者の日々の容態を把握しながら、急変時等は管理者と連携し、早期に対応をしている(入院等は午後9時までで求められている事もあるため)。また家族等との連絡網も整備し、入退院の支援に努めている。	
33	(16)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族とは、行っています。	契約時に重度化や看取りについての説明や承諾書の作成もしている。管理者や職員の思いは看取りについても前向きな考えを持っているが、最終的な対応は医療機関での希望が多い(家族の看取りでの協力など、多くは望めない実情もある)。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者が主に行っています。		
35	(17)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ようやく、地域との応援体制が出来ました。	消防用設備(スプリンクラーなど)の整備もできている。年2回の避難訓練等や法定点検も実施されている。津波は標高が高いため、心配ないが、火災時の対応で特に夜間の応援体制において地域の支援者が4名確保できていた。	

自己	者 第	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	行っています。	個人の人格尊重やプライバシーの配慮に努めている。年長の職員が模範的な対応での指導者役として信頼があり、理念(個人の尊重・尊厳を大切に··)に沿った対応(言葉かけなど)で実行している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人くらいです。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりのペース合わせるように支援しています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみには、気をつけています。		
40	(19)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	オヤツの分配程度です。	入居者へは事前に嗜好の調査をおこなっている。近所の人からの新鮮な季節の野菜を取り入れた食事が提供され、入居者は皮むきやおやつを配ったり茶碗を洗うなどの出来る家事に参加している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	なかなか困難です。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行っています。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべく、そのように努めています。	昼夜の紙パンツ使用量を日ごとに把握することや食欲の有無などで排泄のパターンを確認している。また、頻尿の傾向がある入居者は夜間はポータブルトイレを使用するなど自立に向けた支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルト飲用で予防に努めています。		
45	(21)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々にそった支援が出来ていません。	入居者の現在の生活リズムや昔の入浴の習慣や考え方をもとに、入居者一人ひとりに希望やタイミングがあることを認識して入浴の支援をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	徘徊が激しい人は、薬の服用を考えています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師が支援と指導をしています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外のテーブルを利用して、オヤツを食べるときがあります。		
49	(22)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	栃の木探し、お寺などドライブしています。	季節や天候を考慮したうえで玄関先の庭でおやつを食べたり近隣を散歩したりしている。また、利用者の体調に合わせて近所のお寺に出かけたり外食を計画するなどしている。	



自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	していません。		
51			電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来ません。		
52	(23)		居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋に写真などを飾っています。	必要箇所にスロープと階段の両方が設置してあり入居者の状態に合わせて安全に移動できるようになっている。台所は家庭的なつくりになっており落ち着ける雰囲気がある。また、洗面台が食堂の外にあることで人目を気にせず口腔ケアをすることが出来る。	
53			共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	十分とは言えません。		
54	(24)		居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力が無いので、あまり出来ていません。	室内には使い慣れた家具が持ち込まれていたり、お孫さんの作品や家族の写真が飾ってあり居心地が良くなるような配慮がしてある。また、オゾンによる脱臭をおこなっているため不快なおいなどがなく快適に生活する事ができる。	
55			一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自由にさせています。		